

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370105235		
法人名	(株)アイリーフ		
事業所名	アイリーフ当新田		
所在地	岡山市南区当新田364-5		
自己評価作成日	令和 2年 2月 5日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様の高齢化や重度化が進んでいますが、利用者様それぞれが穏やかに過ごせるよう、日々職員がケアの提案や工夫をしています。また新しい利用者様も加わり、今までしてきた家事や趣味等を楽しく継続してもらえるように支援しています。利用者様やご家族に「アイリーフ当新田に来てよかった」と思っただけのように、明るくて心地よい環境づくりを心掛けています。昨年9月から外国人技能実習生の受け入れを行い、はじめはそれぞれ戸惑いがありましたが、今では実習生への教育を通じて、これまでのケアの見直しもでき、サービスの質の向上に繋がっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	令和2年2月21日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者の高齢化・重度化が進むなかで、スタッフの確保にも職員は奮闘している。その中で利用者のケアや工夫を考え対応しながら、次のリーダーの育成等頑張っていることが良く分かる。又、医療連携がよく出来ており家族とも情報の共有や連絡が出来ているため、安心に繋がっていると思う。又職員が若く元気があることで、施設内が明るい印象も受けた。今春から記録のIT化や環境整備など施設内の取り組みが計画がよく立てられているので、ハード面がより整って行くのだろうと思う。次は、ソフト面での「心のケア」「寄り添うケア」が充実されるとよりよいホームとなるのではないのでしょうか。「利用者さんに楽しんでもらえるように私達は明るく元気におつき合います」の職員の言葉に期待しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念や事業所理念はホールの見えるところに掲示している また会社内での全体研修に全員参加し、理念を共有し、実践できるように努めている	会社全体での理念の研修会は毎年1回開催している。参加できない職員がいた時は、別の機会に研修する機会を設けている。具体的にどのように実現していくかは、職員其々が小さな目標を立てて取り組んでいる。	このホームでは長い歴史の中でも理念を念頭に置いて個々の目標を設定してよく頑張っているの、区切りの時の評価を大切に、記録にも残して欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にはなかなか参加できていないが、夏祭りや餅つきなどの事業所の行事に参加してもらえるように案内し交流の機会を設けている	例年の行事以外でも、ご近所の散歩や買い物と一緒に掛けることは継続している。又毎週ボランティアの方の訪問でお話をしてもらったり、雛祭りでは、近くの幼稚園児の慰問も継続して来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で話をしたり、町内の回覧板で事業所行事の案内やかわら版を載せ、情報発信を行っている 散歩や行事参加時に地域の方と触れ合い、理解していただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や今後の課題等を報告し、地域の方からの意見をいただいている 参加した方からの意見や要望は職員で共有し、サービス向上に繋げている	地域の方が求めることに対応しようと思っていたがあまり声が上がらない。PR不足と感ずるので施設で「かわら版」を作り、町内会の回覧板に回してもらおう等対策をしている。2月には「認知症についての理解を深める」勉強会もした。	身体拘束適正化検討委員会が出た内容を運営推進会議に出して、皆と一緒に考えるのはいかがでしょうか。ホームとして考えている事に対してどう思うかを聞く色々な声が出るのではないのでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業所の現状報告をし、アドバイスをもらっている	日常的に連絡を取り合うことはないが、運営推進会議の時に、アドバイスや認知症の映画情報や認知症サポーター養成講座の事などの情報ももらっている。また日頃解らない事がある時は電話等で指導してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員を設置し、身体拘束廃止に関する指針を作成している 定期的・または緊急時に話し合いを行うようにしている	基本的には身体拘束適正化検討委員会の中で、管理者とサプリーダーが中心に行っている。一度二階の利用者が外に出してしまったことがあり、委員会で検討し階段にセンサーを付けて対応するようにしている。	職員から利用者への声掛けで「座って」との言葉が聞こえる場面があった。場合によっては、不適切ケアと誤解をうけることがあるかもしれないので検討してみるのもどうでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行ったり、カンファレンス等で話し合いを行い、言葉遣いや行動などを見直し、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員で学ぶ機会は作れていないが、今後勉強会の開催を検討中		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに対する指針、利用料金、リスク等について話し合いを行い理解に努めている また随時、不安や疑問を伺うように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会・ケアプラン更新の面会時など話し合える機会を設けている 意見箱の設置や年1回ご家族にアンケートを実施し、意見は職員で共有し改善に努めている	家族会での大掃除の参加も定着している。昨年の大掃除では全体の8～9家族の参加があった。又、家族アンケートの中の「看取り」の希望については、10人中9人の方が施設での看取りを希望されていた。このような家族の意見をサービスに取り込んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回合同カンファレンス・ケアカンファレンスを行い、意見交換や提案を聞く機会を設けている 個別でも意見等が言いやすいように工夫している	昨年管理者が変わり、新しい施設長が着任し、スタッフ一人ひとりと個人面談を行っている。その時に、「現状や悩み、個人の思い」を聞いている。働くモチベーションアップの意見交換を行うなど職員の意見に耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、年間目標を作成し、それに向かい努力している また2ヶ月ごとに個人目標を立てている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での勉強会は定期的に行っているが、外部への研修への参加が少なかったため、来年度は各職員にあった研修への参加を検討している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	改善コンクールに参加し、他事業所の取り組みをみて参考にできることは取り入れている 2ヶ月に1回、他グループホームの管理者が集まり、情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族から困っていることや希望はもちろん、生活歴、趣味なども聞き安心して過ごせるように努めている。サービス導入後もご本人やご家族に積極的に話を聞き、安心できる関係づくりを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや困っていることを傾聴し、理解に努めより良い関係作りを行っている。また、話しやすい雰囲気や場面作りも行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のご様子や要望、ご家族の意見などから情報収集を行い、必要なサービスを見極める努力を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できること」や「したいこと」を見極め、お互いに協力して支え合っている 「できること」が少しでも長く続けられるようにサポートしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のご家族への手紙や行事に参加していただき、利用者の生活の様子を報告し、情報を共有している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族から情報を集め、外出支援に繋がりたいが少なくなっている	昔からの友人も高齢のため訪問が少なくなった。手紙も以前より少なくなったが、年賀状など代筆をしながらも交流が続いている人もいる。ホーム開設当時の近所の散歩によって馴染みの方々との挨拶や立ち話が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の様子や状況を把握し、体操やレクリエーション等を通して、ユニットは関係なく交流できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、行事の案内をしたり、一周忌には手紙を送っている 先方からお誘いの連絡もある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別のケアカンファレンスやご家族との面談、日々の利用者の状況や気持ちを書き留めて、ご本人の希望や思いを把握し、希望が実現できるように努めている	自宅が気になっている人には、家の近くまでお連れして見てもらうこともあった。レビー小体型認知症の方で、サービス付き高齢者住宅から転居された方は、以前と同じ様に家族の宿泊と一緒に外出を希望されているためその意向に添っている。	目標達成計画の項目の一つに「本人の言葉・表情・仕草を記録しケアプランに」という項目がみられたが、是非有効な計画を立てて下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報を集め、把握に努め、安心して生活できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の様子や変化を申し送りノートや介護記録に記録し情報共有している 看護師との連絡ノートもあり、医療面でのアドバイスももらっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の生活から希望や思いを聞き出したリ、ケアプラン更新の面談時にはご本人・ご家族・職員それぞれのニーズを拾い出し、話し合いを行っている	担当が3か月に1回アセスメントを行い、6か月に1回はカンファレンスをしている。可能な人は、本人にも会議に入ってもらい「ごはんを外に食べに行きたい」と言われプランに入れたり、「手伝いをしたい」と言われる人には洗濯や洗い物等役割をもってもらっているようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス、申し送りノート、介護記録に利用者の変化やご家族面会時の様子等を記入して職員間で情報共有し実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食や買い物等の外出支援など、その時に必要な支援をできる限り行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を収集して、その情報の中から利用者の生活の質の向上に繋げられるように取り組んでいる 散歩時には挨拶や世間話をし、交流している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や往診の結果等は面会時やご家族への手紙で報告している またご家族の不安や疑問等があれば、主治医と話をする場を設けるようにしている	現在5か所のクリニックが往診に来てくれている。緊急時にも対応してもらっている。但し、内科以外の科は、職員が対応して受診している。医療連携が出来ているので、ご家族の方にも安心してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化には、看護師へ報告・連絡・相談を行い、医療と介護が連携している 異常が発生した場合は、24時間対応で電話連絡を行い、適切な対応が受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いに行き、病院関係者から情報収集を行い、利用者の情報把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入居時に説明を行い、時期が来たら改めてご家族・主治医・職員で話し合いを行い、利用者やご家族が安心して過ごせるよう介護の方向性を統一している	今年度は2名の方の看取りを行った。体調が変わった時々に家族・主治医と相談し、検査結果の内容で、主治医から家族に説明をし、看取りを希望されると指針を伝えることになっている。家族に医師が直接丁寧に対応してくれるので安心できる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED使用方法・心臓マッサージ等の緊急時対応の勉強会を随時行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に避難マニュアルを掲示し、年2回避難訓練を行っている 水や食料などの備蓄も準備しており、緊急時に避難場所として施設を開放することを地域の方に伝えている	玄関・各フロアに災害対応マニュアルを掲示している。火災・風水害・地震と分けて書かれており、とても見やすい。運営推進会議の日に避難訓練を行いご家族にも体験してもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格等の情報を職員間で共有して、それぞれにあった声かけやジェスチャーで対応している	日中部屋で過ごすことを好まれる人は、夜間自室の部屋の鍵を施錠されることがある。家族と相談をしながら巡視する工夫もしている等、それぞれの本人や家族の思いや個人のプライバシーは配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より希望や思いを言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている また利用者が自己決定できるように選択肢のある声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調を見ながら、それぞれのペースに合ったケアを支援しているが、職員の都合になってしまうこともあるので今後も気をつけていきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを把握し、その日の天気などもふまえ、その人らしいおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は職員の手作りで出来たてを提供し、月1回お楽しみ昼食や誕生日会では、利用者の希望を反映させた食事を用意している また利用者には食器洗いやお盆拭き等の役割を持ってもらっている	職員不足の関係で、外注に食事を頼んだことが2ヶ月あったが、「温かみのある食事は手作りだから」と職員からの声があがり手作りに戻した。食事前のテーブル拭きや食後の食器洗い等、利用者が率先して行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調を配慮して、食事形態や食事量を調整している 水分は危険なく飲んでいただけるよう、声かけや飲み物の種類、水分の取り方の工夫に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に応じた口腔ケアを行っている また歯科より指導してもらったり、定期的にチェックを行って、清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄時間を考えトイレで排泄できるように誘導したり、自尊心に配慮した声掛けを行っている	トイレは車椅子対応と、自立用と2種類あり、本人の都合よい方を利用している。声掛けでトイレに行かれる方や誘導が必要な方と、其々に合った声掛けを実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳をお出ししたり、運動や腹部マッサージなど利用者それぞれの体調に配慮した対応をしている 便秘の方には、主治医や看護師との連携を行い薬の調節をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っている 曜日や時間帯は決まっているが、利用者の希望があれば柔軟に時間や曜日の変更をしている	入浴を楽しみにされている方も多く、週3回の入浴を実施しているが、利用者の重度化が進みユニット毎のリフト浴の導入を検討している。浴室にお花を飾り、入浴者にも楽しんでもらえるように工夫も見られた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの気分や体調に配慮して自由に休んでもらっている 居室の温度や湿度等にも気をつけて昼夜逆転しないように気をつけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の既往歴を理解し、薬の作用について主治医や看護師からの説明を受診ノートや申し送りノートを使い、情報共有している 配薬ミスをなくすため、職員による声出し確認やダブルチェックを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や興味のあることを把握して、外食や塗り絵、家事等、個性を活かせる楽しみを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から散歩や買い物にお誘いしている 季節や職員の人数等の理由でなかなか外出できないこともあるが、今後外出の機会を増やしていきたい	昨年までは、秋の遠足は全体で実施していたが、今年からユニット別、グループ別に2~3名でドライブやバラ園へ出かけた。少人数で出かけた方が、スムーズであったし、利用者も喜ばれた。	今後増々利用者の重度化が進むようになったら、小規模のお出掛けにも家族の応援をお願いしてみても良いのではないのでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族もしくは施設で管理している希望があれば一緒に買い物に行き、好きな物を買っていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者やご家族の要望に応じ、電話や手紙でのやり取りを行えるように支援している 手紙や年賀状の返事を職員が代わりに書いて送ったこともある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる壁面の作成や週1回新鮮な花を活けて、利用者の五感に訴えかける居心地よい空間づくりをしている ソファの位置や食事の席を変えて落ち着いて過ごせるように工夫している	玄関等に美しく迎えてくれるお花は、利用者も一緒に活けられたとか。本人も喜ばれるし、周りの方も花のあることで大変喜ばれている。ホールには日々の様子の写真や書初めなど掲示している。又「アイリーフのかわら版」を、利用者が座った位置から見やすいように掲示している。「ここに置いてくれるから見やすいんよ」と教えてくれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人一人が好きな場所で落ち着いて過ごせるように、ソファや椅子の高さ、テレビの位置を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものや写真等を用意していただき、居心地よく過ごせるように努めている	重度の方で、寝相が悪くベッドから転落を繰り返す方には、低床ベッドを用意その下に布団を敷いて対応している方もいた。又寝たきりの方のお部屋には、壁一面に大好きな氷川きよしのポスターを貼っていた。それは、家族が「何か視界に入れば」との思いからでしょうね。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋やトイレだとすぐ分かる表示や声掛け、また安全な動線を確認し、利用者が混乱しないように工夫している		